



中山 金一 議員

十四山東部小学校北校舎の 改築を求める

問

学校施設について聞く。

(1) 十四山東部小学校（以下「東部小」）は、校舎西側の（市社会教育施設である）十四山公民館を体育館として利用しており、社会教育課が管理し、学校が借りている形態である。

名称変更はできないのか。
(2) 十四山中学校も学校南側にある（市の施設である）十四山体育館を学校の体育館として利用している。
名称変更はできないのか。
(3) 東部小北校舎は、耐震工事を見積もっていると言っていた。
同校舎の建築は昭和35年で、17年度に旧十四山村では将来改築することを前提に、約1億1,300万円の基金を設置した。
校舎内は、柱や壁などが

ひび割れ、モルタルががれたりしている。

安全で安心な校舎の早期整備を求めるが、今後どんな方針で進めるのか。

耐震補強の調査 結果で判断する

答 教育長

(1) 十四山公民館は17年度に耐震補強も施工済みで、当面の建て替えは難しいと考えている。

建設の際は、学校に体育館がない方が補助金採択を受けやすいという国の取り扱ひもある。当面は現状のまま利用した方が有利ではないかと考えている。

なお、利用は学校行事が最優先となっており、授業に支障はないと考えている。

十四山東部小学校北校舎



問
名古屋港高潮防波堤【名古屋】
の鍋田堤が、震度6強の地震で最大1.2m沈下する可能性があることが新聞に掲載された。国や県への対応をどうしていくのか。

名古屋港を囲む形で、市の鍋田ふ頭から知多市臨海部へ向けて伊勢湾を横断する防波堤。高さ約5m、全長約7.6kmで、伊勢湾台風を機に造られた。

対策を急ぐよう 申し入れたい

答 総務部長

(2) 考え方は十四山体育館も十四山公民館と同様で、当面は現状のまま利用していきたい。
(3) 北校舎は現在、18年度実施の耐震診断値を国の指標以上にするため、耐震補強の調査を進め、（その結果により）総合的に判断していきたい。

国は、防波堤は沈下するが転倒せず、また地震直後に伊勢湾台風級の台風が来襲する確率は相当低いというところで、大地震後も、かさ上げ工事で安全性を確保できると考えている。

国や名古屋港管理組合が今年度中に沈下対策をまとめると聞いている。

市としては、機会あるごとに取りまとめを急ぐよう申し入れていきたい。

高潮防波堤の沈下対策は